

字幕付きCM トライアルの成果と課題

2014年3月6日

一般社団法人日本民間放送連盟

民放連の基本的な検討方針

- 字幕付きCMの検討にあたり、まず在京テレビ5社で“トライアル”を実施し、課題・問題点などを民放連で共有する
- テレビ各社において、字幕付きCMを安全・確実に放送できる仕組みを備えることを最終的な目標とする。

(営業委員会の基本方針 2010年7月)

トライアルの実施概要

- 2010年3月から、在京テレビ5社を中心にトライアルに取り組んでいる。ローカルCMだけでなく、ネットCM（系列各社で放送）でも実施している。
- 2013年8月からは在阪テレビ社でもトライアルを実施。今後の拡がり期待される
- トライアルの実施概要は、3カ月ごとに取りまとめ、民放連ウェブサイトで公表している
- これまでに31事例のトライアルを実施済み。現状では、レギュラー番組でも実施している（継続しているものは3カ月単位でカウント）

トライアルの意義

- トライアルを積み重ねることで、字幕付きCMを本格的に受け入れるにあたっての課題を明らかにする
- その課題を民放内で共有するとともに、解決策を探る
- 具体的には各社の設備整備につなげるとともに、CM素材の運用ルールの確立をめざす

トライアルの成果

- ① 明らかになった技術的な課題を踏まえて、CM素材の搬入ルールの整備を行った
- ② 安全かつ円滑な運行のために、トライアル実施社において設備改修などの作業が実施された
- ③ 運行上の課題がある程度明確になり、広告会社や広告主、また系列各局との連絡体制の整備が進んだ

CM素材搬入ルールの策定

タイトル	年月日	主な内容
字幕付きCMのトライアルに関する留意事項<第1版>	2010年 9月10日	<ul style="list-style-type: none">字幕付きCMを「当該CMの音声その他音響を聴覚障害者に説明するための文字または図形(字幕)を重畳したCM」と定義▽搬入媒体、▽字幕フォーマット、▽字幕補助データの重畳、▽10桁CMコード——など、字幕付きCM素材を制作・搬入する際の最低限の事項を取りまとめた
同留意事項<第2版>	2012年 11月19日	<ul style="list-style-type: none">字幕表現に関する規格上(NAB字幕、ARIB字幕)の機能を整理。設備・受信機上の制限(特に携帯字幕への変換)などを踏まえ、字幕表現に関する技術的な留意事項を取りまとめた
トライアルにおける字幕付きCM素材搬入ガイドライン	2013年 4月1日	<ul style="list-style-type: none">同留意事項<第2版>に「CM素材の搬入」に関する事項を追加より実務的なルールとした
同ガイドラインの改訂	2013年 11月25日	<ul style="list-style-type: none">ARIB字幕データを使用したCM素材の搬入が開始されたことを踏まえ、「字幕表現に関する技術的な留意事項」に規定を追加

搬入ルールの概要

- トライアルで得られた知見を随時、反映して改正を行ってきた。技術的な検討についてはほぼ終わり、運用面での課題が残っている。
- 目的は、テレビ各社で共通に運用できるCM素材が搬入されること
- 字幕付きCMは、「当該CMの音声その他音響を聴覚障害者に説明するための文字または図形（字幕）を重畳したCMを指す」と定義

搬入ルールの概要

1. 素材が円滑に受け渡されるようにする
 - 字幕付きCMの搬入素材をHDTVカセットテープ、ファイルベースメディアと決める（具体的には、当該テレビ社が指定する）
2. 通常CM素材との混同を防ぐ
 - CM素材名に「字幕付き」であることを明示すると規定

搬入ルールの概要

3. CM素材のチェック作業の円滑化を図る

- 広告会社に放送局と事前調整を行うよう要請
- 実際の素材搬入に先立ち、絵コンテ、音声原稿、字幕原稿の提出を要請

4. 各社の設備の違いにより問題が発生しないようにする

- 字幕データの重畳方法を規定。
(例)
 - 字幕データは映像信号の補助データ領域に「HD字幕」「SD字幕」「携帯字幕」を必ず重畳する
 - 字幕付きCM素材以外は、補助データ領域に何も重畳しない

搬入ルールの概要

5. 前後の番組やCMに誤って字幕が表示されたり、字幕欠落したりしないようにする
 - 「ロール開始後 1 秒間は、字幕データを重畳しない」「ロール終了 1 秒前からは字幕データを重畳しない」などを規定
6. さまざまな受信機において支障なく字幕表示する
 - 文字フォントサイズ、表示位置の指定方法のほか、縦書きやロールアップは当面運用しないなどを決める

設備面の整備

在京局においては、トライアルの実施に際して、主に次のような設備の改修を順次行った。費用はすべて自社負担。

1. マスターの改修
2. CMバンクの改修
3. 字幕付きCMのチェッカー、プレビュー装置の導入
4. 系列内情報伝達システムの改修

運行面の課題とそれへの対応

1. 広告主・広告会社との連携が必要

- トライアルの意義、実施にあたっての条件などの事前調整
- ガイドラインに準拠したCM素材の制作の依頼

2. 社内・系列各社との連絡が必要

- 不都合発生時の連絡系の整備
- 事後の放送確認作業に必要な連絡系の整備

運行面の課題とそれへの対応

3. 字幕データのチェック作業時間の増大

- CM素材の納品時期の前倒し、字幕チェッカーの導入などで対応しているが、作業時間は倍以上になっている
- 業務量の増加自体は、機器の整備によって完全には解消できない。この点でのテレビ局の負担増は避けられない。

今後の課題

- テレビ各社がマスター更新・システム更新を行う際に順次、字幕付きCMに対応していく必要がある
- さまざまな形のトライアルに取り組み、ノウハウを積み上げていく必要がある。また、本格実施における字幕付きCMの素材搬入の共通ルール（CM素材搬入基準）を確立する
- 取引ルールに関する関係者間での合意形成を図る。その一環として、設備投資および業務量が増加するのに伴い発生する“費用”についても検討する